

Casting Our Eyes
on the Future

視線はまっすぐ未来へ



Financial Report

第92期中間報告書

平成24年4月1日～平成24年9月30日



Ahresty

株式会社 アーレスティ

証券コード：5852

Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research (研究・開発)、Service (サービス)、Technology (技術) において常に主導的リーダーに立ち前進しようという企業姿勢を具現化したものです。

なお、“Casting”は、“投げかける”という意味の他に、当社の主要事業である“Die Casting”の意味も込めています。

タグライン：タグラインは、アーレスティブランド、企業理念を社内外へ発信する究極的なメッセージであり、コーポレートシンボルとセットで使われる言葉です。

製品別概要



ダイカスト事業

高い技術を駆使し、自動車のエンジン、足回り、ボディなどのダイカスト製品を製造・販売しています。

アルミニウム事業

缶、サッシ、自動車スクラップなど、多様な原料をもとに、高品質のアルミニウム合金地金を製造・販売しています。



完成品事業

コンピュータールーム、クリーンルームなどの建築用床材料等を製造・販売しています。



(a:resti)

これからは、より質の高い
 Research、Service、Technologyを
 追求していきます。

アーレスティはR・S・T、Research、Service、
 Technologyこれらの三つの言葉の統合ですが、
 Rは単に研究・開発だけでなく、
 どうしたらもっとお客様のお役にたてるかの創意と探求、
 Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、
 お客様とのすべての接点で、
 そしてTはこのRとSをささえる知識と
 技術を考えています。
 この社名に込められた企業理念を大切に生かし、
 様々な製品を通して、
 広く社会のお役に立ちたいと願っております。

CONTENTS

株主の皆様へ	2
経営基本方針	3
コンプライアンス基本方針	4
環境方針	4
事業の概況	5
事業別の概況	6
四半期連結財務諸表	7~8
トピックス	9
株式情報・会社の概要・株主メモ	10

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く
 お礼申し上げます。

ここに、第92期第2四半期(平成24年4月1日から
 平成24年9月30日まで)の事業の概要につきまして、
 ご報告いたします。

今後とも事業の発展に全力を尽くしてまいる所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援とご指導
 を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月



代表取締役社長

高橋 新

常に生きいきと活動し理論と実験と創意と工夫を尊重して、
品質のすぐれた製品と行き届いたサービスを提供しよう

(1) 経営の基本方針

当社の社名アーレスティは、ResearchのR、ServiceのS、TechnologyのTを続けて読んだものであります。Researchとは絶えることのない新技術・新市場・新しい販売方法の開発・研究調査、Serviceとは人と人とのふれあいのなかで本当に行き届いた温かいサービス、Technologyとは世の中に役立つ真によいものをハードとソフトも含めて作ってゆく技術を意味します。このRとSとTは、お互いに深く支え合いながら、お互いをよりすばらしいものへと磨きあっていくという有機的な関係にあります。私たちは、このような考えのもとにResearch、Service、Technologyを統合した思想を企業理念として「アーレスティ」を社名としております。

当社の長期的な経営の方向性を示した「アーレスティ10年ビジョン」では『『すべてのステークホルダーから信頼されるグローバルトップ企業』をめざす』ことを基本の方針とし、顧客・株主/投資家・従業員・取引先・社会の5つの利害関係者の視点に立って「信頼される企業」となるためにはどうすべきかという観点であるべき姿を描き、具体的な指針・手段として方針を定めております。この10年ビジョンをベースに中期経営方針(1012 3か年アーレスティ方針)では、より具体的な施策・目標値を設定し、更に部門方針へと展開して全社的な活動を推進しております。

(2) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主をはじめとする全てのステークホルダーに対する経営責任と説明責任を明確にするとともに、高い透明性を伴った経営体制を確立することで、当社グループ全体での収益力の拡大と企業価値の増大を目指しております。さらには内部統制システムとリスク管理体制を充実させ、グループ

子会社の事業活動についても管理・監督を行う経営システムの構築を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針と考え、重要な経営課題であると認識しております。

コンプライアンス基本方針

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し役員および従業員は、自らの行動または業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- 1 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- 2 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- 3 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- 4 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- 5 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- 6 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- 7 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- 8 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
- 9 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
- 10 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。

環境方針

かけがえのない地球を守るのは私たちの大切な役割です。株式会社アーレスティの環境への取組みをご紹介します。

- 1 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
- 2 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取組みます。
- 3 私たちは特に次の事項について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取組みます。
 - ①大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
 - ②廃棄物の再資源化100%を維持します。
 - ③廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
 - ④CO₂排出の抑制をはかり、地球温暖化防止への配慮をします。
 - ⑤環境に配慮した製品および商品の開発・設計に取組みます。
- 4 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的に行います。
- 5 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。

～私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします～

事業の概況

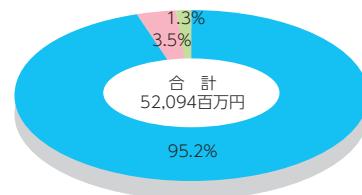
Financial Highlights

■企業集団の事業の経過および成果

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要等による緩やかな持ち直しがありつつも、世界景気の減速等の影響を受け、総じて緩やかな回復から足踏み状態になりました。海外においては、米国では緩やかな回復傾向にあるものの、中国やインドでは景気拡大のテンポが鈍化するなど、景気減速の動きが広がる状況となりました。

このような環境の中で、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高52,094百万円（前年同四半期比9.5%増）、営業利益370百万円（前年同四半期は営業損失421百万円）、経常損失67百万円（前年同四半期は経常損失470百万円）、四半期純損失524百万円（前年同四半期は四半期純損失547百万円）となりました。

■事業別売上の状況

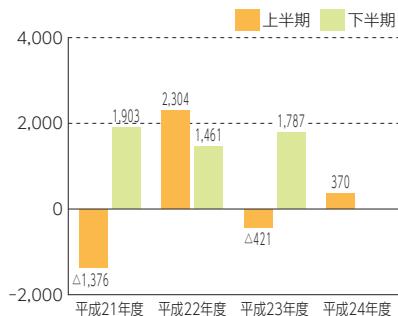


ダイカスト	49,566百万円
アルミニウム	1,834百万円
完成品	693百万円

■業績の推移 (連結)

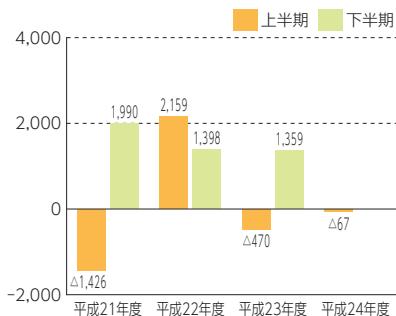
■営業利益

(単位:百万円)



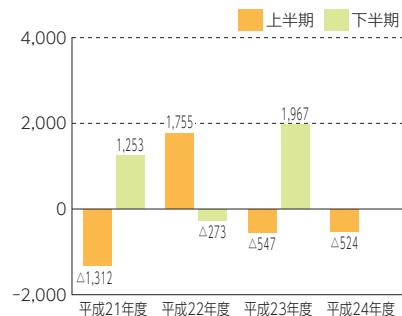
■経常利益

(単位:百万円)



■四半期純利益

(単位:百万円)



事業別の概況

Financial Highlights

ダイカスト事業

① ダイカスト事業 日本

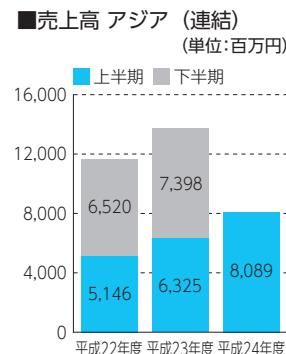
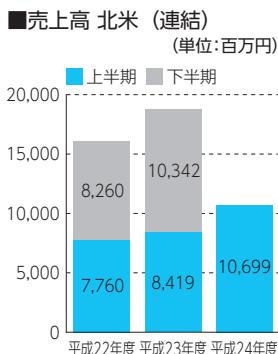
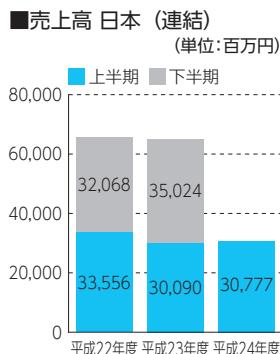
国内では、主要顧客である自動車メーカーにおいて、エコカー補助金の効果による国内販売増や東日本大震災の復興需要等により生産が増加しました。当社においても、それらの影響を受けて受注が増加したことにより、売上高は30,777百万円（前年同四半期比2.3%増）となりました。収益面においては、東海工場の集約に伴う一時的な費用増等の影響によりセグメント利益は107百万円（前年同四半期比64.2%減）となりました。

② ダイカスト事業 北米

北米では、東日本大震災の影響により減少した主要顧客からの受注が回復し、アメリカでの自動車販売も好調であることから受注が増加し、売上高は10,699百万円（前年同四半期比27.1%増）となりました。収益面においては、受注増の影響や、メキシコで発生していた生産対応の遅れによる費用を削減したこと等により、セグメント利益は496百万円（前年同四半期はセグメント損失425百万円）となりました。

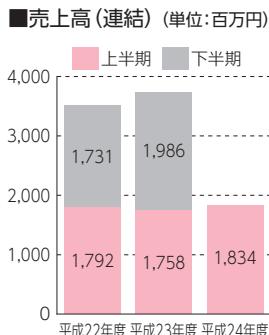
③ ダイカスト事業 アジア

中国では、平成23年夏より合肥における新拠点が操業開始した影響に加え、広州及びインドの拠点においても新規製品の量産が本格化したことにより受注が増加し、アジアでの売上高は8,089百万円（前年同四半期比27.9%増）となりました。収益面においては、インド及び合肥での先行投資による固定費の増加影響等により、セグメント損失は263百万円（前年同四半期はセグメント損失312百万円）となりました。



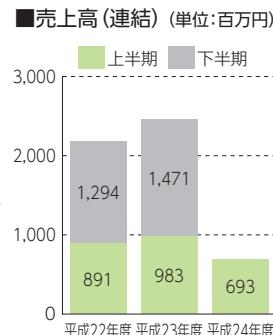
アルミニウム事業

アルミニウム事業においては、市場低迷によって価格が抑えられた状況ではあるものの、二次合金地金の出荷量が前年同四半期比で20.0%増となったことにより、売上高は1,834百万円（前年同四半期比4.4%増）となりました。収益面においては、受注の増加や、使用原材料を含む原価低減活動を図ったことにより、セグメント利益は45百万円（前年同四半期はセグメント損失23百万円）となりました。



完成品事業

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業の設備投資が低調であることに加え、通信会社のデータセンター向け物件の需要も低い水準で推移したことにより、売上高は693百万円（前年同四半期比29.5%減）となりました。収益面においては、受注減少の影響等により、セグメント損失は32百万円（前年同四半期はセグメント利益19百万円）となりました。



四半期連結財務諸表

Consolidated Quarterly Financial Statements

■ 四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期末 平成24年9月30日現在	前期末 平成24年3月31日現在	科 目	当第2四半期末 平成24年9月30日現在	前期末 平成24年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	39,814	44,486	流動負債	42,198	42,166
現金及び預金	6,117	7,358	支払手形及び買掛金	14,493	18,653
受取手形及び売掛金	20,513	24,541	電子記録債務	2,839	-
商品及び製品	2,548	2,153	短期借入金	6,092	4,541
仕掛品	4,188	3,826	1年内返済予定の長期借入金	9,308	9,133
原材料及び貯蔵品	2,558	2,657	未払法人税等	479	273
その他	3,890	3,949	賞与引当金	1,063	1,092
貸倒引当金	△ 1	△ 1	事業構造改善引当金	375	-
			製品保証引当金	202	448
固定資産	61,560	60,721	災害損失引当金	68	104
有形固定資産	56,003	54,135	その他	7,274	7,919
建物及び構築物（純額）	10,854	10,433	固定負債	25,290	27,627
機械装置及び運搬具（純額）	26,080	25,228	長期借入金	18,342	19,674
土地	5,701	5,716	退職給付引当金	3,868	3,790
建設仮勘定	8,796	8,747	事業構造改善引当金	-	482
その他（純額）	4,569	4,009	その他	3,079	3,680
無形固定資産	901	901	負債合計	67,488	69,794
投資その他の資産	4,655	5,685	純資産の部		
投資有価証券	4,104	5,150	株主資本	38,807	39,397
その他	552	535	資本金	5,117	5,117
貸倒引当金	△ 1	△ 1	資本剰余金	8,359	8,359
			利益剰余金	25,651	26,240
資産合計	101,375	105,208	自己株式	△ 320	△ 320
			その他の包括利益累計額	△ 4,994	△ 4,050
			その他有価証券評価差額金	1,168	1,846
			為替換算調整勘定	△ 6,162	△ 5,897
			新株予約権	73	67
			純資産合計	33,886	35,414
			負債純資産合計	101,375	105,208

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期累計 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
売上高	52,094	47,577
売上原価	47,072	43,105
売上総利益	5,022	4,471
販売費及び一般管理費	4,651	4,892
営業利益又は営業損失(△)	370	△ 421
営業外収益	170	311
受取利息	12	21
受取配当金	56	53
負債のれん償却額	-	54
為替差益	-	82
スラップ売却益	36	35
その他	65	62
営業外費用	609	360
支払利息	377	312
為替差損	169	-
その他	63	47
経常損失(△)	△ 67	△ 470
特別利益	171	2
固定資産売却益	3	2
補助金収入	168	-
特別損失	96	89
固定資産除売却損	96	57
退職給付制度改定損	-	22
その他	-	10
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	7	△ 558
法人税、住民税及び事業税	645	451
法人税等調整額	△ 112	△ 462
法人税等調整額計	532	△ 10
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△ 524	△ 547
四半期純損失(△)	△ 524	△ 547

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期累計 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,721	△ 468
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,820	△ 7,509
財務活動によるキャッシュ・フロー	206	4,110
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 117	△ 189
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,010	△ 4,057
現金及び現金同等物の期首残高	6,688	9,179
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	-	153
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,678	5,275

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

メキシコ工場増築

当社子会社であるAhresty Mexicana, S.A. de C.V. (アーレスティメヒカーナ) は、新規受注への対応及び能力増強のために、鋳造棟及び加工棟の増築工事を今春より進めておりましたが、2012年10月竣工いたしました。

また、金型の整備、製作能力の向上を目指し、金型メンテナンスエリアと金型製作エリアの一体化を図るため、金型工場の増築工事を2012年12月に竣工いたします。

会社概要 (2012年9月現在)

所在地 Calle Industria Automotriz #20
Complejo de Naves Industriales la Zacatecana
Guadalupe, Zacatecas C.P.98600, Mexico, D.F.

敷地面積 100,000㎡

建物面積 28,000㎡ (増築面積2,600㎡)

主要設備

ダイカストマシン：17台 (2013年初 4台増設予定)

機械加工ライン：22ライン (3ライン増設予定)

金型工場 建屋面積1,600㎡ (増築面積1,200㎡)



アーレスティメヒカーナ工場増築予想図

株式情報・会社の概要・株主メモ

Stock Information・Corporate Information

■株式状況（平成24年9月30日現在）

● 株式数および株主数

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	21,778,220株
株主数	4,871名

■大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
高橋 新	915	4.2
モルガンスタンレーアンドカンパニーエルエルシー	775	3.5
㈱三菱東京UFJ銀行	765	3.5
本田技研工業㈱	672	3.1
日本軽金属㈱	657	3.0
HSBC PRIVATE BANK (SUISSE) SA HONG KONG BRANCH - CLIENT ACCOUNT	647	3.0
アーレスティ取引先持株会	611	2.8
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱(信託口)	598	2.7
ザバンクオブニューヨーク・ジャスディックノントリー・アカウント	592	2.7
スズキ㈱	565	2.6

(注) 1. 株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は自己株式(213,846株)を控除して計算しております。

■所有者別株式分布状況

個人その他	40.0%
外国法人	22.6%
その他法人	20.9%
金融機関	14.6%
金融商品取引業者	1.9%



■所有者別株主分布状況

個人その他	93.9%
その他法人	3.4%
外国法人	1.6%
金融機関	0.8%
金融商品取引業者	0.3%



■会社概要（平成24年9月30日現在）

商号	株式会社 アーレスティ
設立	昭和18年11月2日
資本金	51億1,759万円
従業員数(単独)	926名

企業集団の従業員の状況

	従業員数
ダイカスト事業日本	2,139名
ダイカスト事業北米	1,749名
ダイカスト事業アジア	2,321名
アルミニウム事業	52名
完成品事業	29名
全社(共通)	82名
計	6,372名

取締役および監査役（平成24年9月30日現在）

代表取締役社長	高橋 新	常勤監査役	熊木 勉
取締役	石丸 博	常勤監査役	見目 康夫
取締役	野中 賢一	社外監査役	早乙女 唯
取締役	古屋 茂	社外監査役	志藤 昭
社外取締役	原 隆		

株主メモ

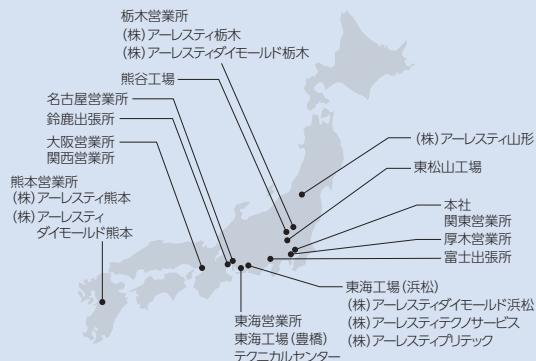
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ahresty.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■事業拠点一覧 (平成24年9月30日現在)

国内ネットワーク



海外ネットワーク



当社ホームページ

<http://www.ahresty.co.jp>

当社ホームページの「IR情報」では、株主の皆様へ最新情報をお届けしております。あわせてご覧ください。

Research Service Technology

株式会社 **アレスティ**

〒164-0011 東京都中野区中央1-38-1 住友中野坂上ビル11F
 TEL.03-5332-6001 FAX.03-5332-6037
 URL. <http://www.ahresty.co.jp>



見やすいユニバーサルデザイン
 フォントを採用しています。



ISO14001:2004認証取得

本社、東海工場(浜松)、東海工場(豊橋)、東松山工場、熊谷工場、テクニカルセンター、株式会社アレスティ栃木、株式会社アレスティ熊本、株式会社アレスティ山形、株式会社アレスティプリテック、株式会社アレスティテクノサービス、株式会社アレスティダイモールド浜松、株式会社アレスティダイモールド熊本、株式会社アレスティダイモールド熊本



ISO9001:2008認証取得

JQA-QMA1412
 本社(但し、商品営業部を除く)、テクニカルセンター、東海工場、東松山工場、熊谷工場、株式会社アレスティ栃木、株式会社アレスティ熊本、株式会社アレスティ山形、株式会社アレスティプリテック



ISO9001:2008認証取得

JUSE-RA-057
 商品営業部及び関連組織(品質管理部、経営企画部、ヒューマンリソース部)